

事務事業名	小学生稲作体験助成事業					☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連			
政策名	総合計画 03	働き人々が輝きつづけるまちづくり				所属部	産業振興部	所属課	農政課		
施策名	11	農業の振興				所属係	農業振興班	課長名	古閑 誠也		
基本事業名	31	後継者の育成				担当者名	上山 直美	電話番号 (内線)	248-1111 1166		
予算科目	会計 01	款 06	項 01	目 05	事業 77	農業振興費				法令根拠	
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 18 年度 ~) (年度 ~ 年度)										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)					
(事業の内容) 農業・農村理解のため米作り・稲刈り体験活動支援事業 (業務の内容) JA菊池青年部及びPTA主催による市内5小学校児童の田植え、刈取り体験に対する事業費の補助金支払い事務(申請書の確認、起案、決済) (予算の内訳) 負担金補助及び交付金						総投入量	財源内訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源			
							事業費	事業費計 (A)	0		
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B)			
							人件費	人件費計 (B)	0		
							トータルコスト(A)+(B)	0			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・補助金支払い事務

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年におなじ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市内小学生

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・稲作体験を通じて、農業、農産物の、食料に対する理解を深めることができる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

後継者が確保されている

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 補助金申請件数	件



イ

ウ

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 米作り活動を実施した学校数	校



イ

ウ

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 参加者で初めて米作りの体験をした人数	人



イ

ウ

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 農業への理解ができたと答えた児童数	人



イ

ウ

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	財源内訳							
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		187	187	187	187	187
	事業費計 (A)	千円	0	0	187	187	187	187
	人件費	人		2	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間		30	30	30	30	30
	人件費計 (B)	千円	0	0	119	119	119	119
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	306	306	306	306
活動指標	ア 件			3	3	3	3	3
	イ							
	ウ							
対象指標	ア 校			5				
	イ							
	ウ							
成果指標	ア 人							
	イ							
	ウ							
上位成果指標	ア 人							
	イ							
	ウ							

事務事業名	小学生稲作体験助成事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	-------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

田植え・稲刈り・餅つき等一連の活動体験を通して米づくりに関心を持ち、勤労の心を育て、農業への理解を深め、地域農業への関心を高める。また食べ物の大切さ・食の安全性などについても学ぶことができ、米の消費拡大の推進を図る。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

食育の重要性についてあらゆる場面で言及される機会が多くなってきている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

子どもたちの教育として大変重要と考えている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】  市の食育、農業振興を目的とした事業である。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】  食育の重要性はますます強まっている。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 適切である ⇒【理由】  農業体験児童数を検討
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】  現在の体験回数を増やすためには、体験圃場等の問題もあり、現在の規模が適当である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】  体験学習の機会がなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある  (具体的な手段、事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】  JAの青壮年部会員等に委託できないか検討の余地がある。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】  現在地域の子供会等で体験学習を実施しているところもあるが、水田(圃場)の借り上げ・肥培管理等の課題もあり実施にいたっていない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】  補助金支払い事務は職員以外の対応ができない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】  ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】  子どもの頃の体験は大人になってからも残っており、意図を広める点で公平公正である。

合志市

事務事業名	小学生稲作体験助成事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	-------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

目的妥当性においては、体験児童数を検討する余地がある。
有効性においては、体験回数を増やしたり、PTAとJA青壮年部とが実施している状況を検討する必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項